

2013 年度（平成 25 年度）
学生による授業評価アンケート
実施報告書

福山大学 大学教育センター
教育評価・改善部門

目次

はじめに	1
1. アンケート調査の目的	2
2. アンケート調査の概要	2
3. 調査結果	11
(1) アンケート調査実施状況について	11
(2) 調査結果の内容（学生による授業評価）	11
① 授業の進め方について	11
② 教員の話し方について	12
③ 授業の計画性について	13
④ 授業の開始時刻と終了時刻について	13
⑤ 講義内容を理解しやすくする教員の工夫について	14
⑥ 質問に対する教員の誠意について	15
⑦ 講義内容の難易度について	16
⑧ この科目の授業内容や実施方法への満足度について	16
(3) 調査結果の内容（学生の自己点検）	17
① 授業に対する予習、復習などの自己学習について	17
② 授業に対する集中度について	18
③ 授業への出席状況について	18
④ 授業の受講による知識の深まりについて	19
⑤ 受講時の工夫について	20
⑥ 質問への積極性について	21
⑦ 学修への意欲の高まりについて	22
⑧ 学修の成果について	22
4. アンケート結果に対する学科報告書	23
5. 授業担当教員の報告書	39

はじめに

福山大学では「地域社会の中核となる職業人の育成」という教育目標の達成に向け、大学全体として、また、それぞれの学部・学科において様々な教育改革に取り組んでいるところである。大学全体としては「福山大学教育システム」を構築し、教育目標を設定して、初年次教育やキャリア教育の整備など全学共通教育の改革に取り組んでいる。また、学部・学科では、それぞれの中目標とカリキュラムとの関係を示すカリキュラム・マップを作成し、学修の道筋を示している。これらは学生が学びやすい教育環境を提供するという観点から重要な取組であるが、教育の基本は日々の講義、演習、実験である。日常の教育の場が学生にとって知的な魅力を感じる場であることが必要条件である。教育の場が不快を感じる場であっては成果を上げることは不可能であり、学生が学びたいことを学べる場でなければ学修意欲を駆り立てることはできない。「学生による授業評価アンケート」は自己評価委員会が平成 16 年度に本学で初めて実施して以来、本学のすべての教員が少なくとも 1 年に 1 度、学生による授業評価を受けている。平成 23 年度より大学教育センターが担当することになり、学生による授業評価だけでなく学生自身の学修の点検も加えたアンケート調査を実施している。授業改善に資する貴重な情報として活用し、教育改善に向けた研鑽を積んでいる。大学教育センターでは各学部 1 名の委員から構成される教育評価改善部門を設けて担当部門とし、「学生による授業評価アンケート」を実施している。このアンケート調査結果が、教員と学生がそれぞれの目標とする教育と学修の成果向上の機会となることを願っている。

大学教育センター

センター長 松浦史登

授業評価・改善部門

部門長 山本 覚

委員 桑原哲也

委員 平 伸二

委員 香川直己

委員 菊田安至

委員 森田哲生

1. アンケート調査の目的

学生が主体的に学ぶ授業の展開を目指して、学生が授業をどのように受講し、授業に期待していることを教員が理解し、各教員の授業改善に資するために本アンケートを実施する。また、全学的な教育改革の成果を検討する貴重な資料とする。さらに、学生が自己評価し、自身の学習姿勢を点検して改善に役立てるために本アンケート調査を実施する。

2. アンケート調査の概要

(1) 実施期間

アンケート調査結果を学生にフィードバックする期間を確保するため、それぞれ第 10 回目～11 回目の授業時間の一部を利用して実施した。

前期：平成 25 年 6 月 13 日（木）～26 日（水）

後期：平成 25 年 12 月 1 日（月）～14 日（土）

(2) 調査科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）1 人当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針とした。調査を希望する教員については、2 科目以上について調査対象とすることにした。全学で、前期 194 科目（受講者数延べ 10,488 名）、後期 87 科目（受講者数延べ 5,721 名）、通年で 281 科目（受講者数延べ 16,209 名）を対象に調査を行った。調査科目を p.3～p.8 に示した。

(3) アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した（p.9 の調査用紙を参照）。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

(4) 調査結果の集計

アンケート調査の集計作業を外部（リョービシステムズ㈱）に委託した。集計後、各回答数に係数（強く肯定する回答には 5、強く否定する回答には 1）を乗じ全回答数で除すことで、5 段階評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、最高値は 5.0、最低値は 1.0、標準値は 3.0 となる。なお、質問 3 のみ「シラバスを読んでいない」という選択肢を増やし 6 段階評価とした。

(5) 学生へのフィードバック方法

前期および後期授業のそれぞれ最終回（15 回目）および試験期間中にアンケート調査結果とその対応を学生にフィードバックした。方法は学科に一任した。

(6) アンケート実施後の教員による報告書提出

授業担当教員に集計結果返却後、1 ヶ月以内に報告書（p.10 の報告書書式を参照）を学科長に提出し、学科長は学科教員の報告書を取りまとめて大学教育センター長に提出した。

(7) アンケート実施後の学科による総括

年度末に前期および後期の調査結果を踏まえて学科単位で総括し、学科長から大学教育センター長に提出した。

平成25年度（前期） 授業評価アンケート実施科目一覧

学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
経済	経済	向井 昇	非常勤	生活設計・税基礎 I	1230330F	月	1	81
経済	経済	掛江正造	教授	マクロ経済学 I	1125270F	月	2	125
経済	経済	宮本賢作	非常勤	学校保健論	1240060F	月	2	43
経済	経済	金丸純二	教授	スポーツ理論 I	1240040F	火	3	82
経済	経済	亀岡 章	非常勤	不動産・相続応用 I	1230610F	火	4	31
経済	経済	上迫 明	准教授	商法 I	1220550F	水	1	127
経済	経済	佐々木 宏	非常勤	スポーツ社会学	1240370F	水	2	39
経済	経済	佐藤健次	非常勤	リスク管理・金融基礎 I	1230550F	水	4	72
経済	経済	田邊一洋	非常勤	スポーツとメディア I	1240840F	木	4	30
経済	経済	幸田洋子	非常勤	FP実技基礎 I	1230570F	木	4	80
経済	経済	入谷 純	教授	財政学 I	1220100F	火	4	130
経済	経済	勝矢倫生	非常勤	日本経済史 I	1220470F	金	2	47
経済	経済	李 森	教授	労働経済論 I	1120490F	火	1	26
経済	経済	相原正道	准教授	スポーツ経営学	1240550F	木	1	41
経済	経済	鳥谷部 茂	非常勤	法学概論 I	1210270F	金	3	63
経済	経済	蓮尾陽平	非常勤	社会・公民科教育法	9002910F	木	2	6
経済	国際経済	尾田温俊	教授	ミクロ経済学Ⅱ	1125260F	木	1	73
経済	国際経済	古島義雄	教授	国際経済学 I	1220120F	水	2	62
経済	国際経済	井上矩之	教授	地域開発論 I	1220200F	木	2	18
経済	国際経済	馬 成三	教授	中国経済論 I	1260290F	木	4	57
経済	国際経済	富士 彰夫	教授	アメリカ経済論 I	1125470F	木	1	18
経済	国際経済	足立 浩一	准教授	アジア太平洋経済論	1260420F	水	3	18
経済	国際経済	鍋島正次郎	准教授	備後地場産業論	1220770F	水	3	10
経済	国際経済	中村 博	准教授	国際学	1230670F	月	3	58
経済	国際経済	中川洋一	非常勤	国際関係論 I	1126340F	月	3	37
経済	国際経済	植田 讓	非常勤	旅行業法	1260010F	月	2	7
経済	国際経済	内海 香	非常勤	外国為替法	1260210F	木	2	116
経済	国際経済	賈 保華	客員教授	中国経済特論 I	1260310F	月	1	24
経済	税務会計	日野恵美子	講師	経営戦略論	1260590F	水	1	15
経済	税務会計	古市雄一郎	准教授	会計学総論I	1250190F	火	2	33
経済	税務会計	許 霽	准教授	財務諸表論	1250090F	火	1	30
経済	税務会計	井手吉成吉	講師	原価計算論I	1250230F	火	3	17
経済	税務会計	桑原哲也	教授	経済学演習 I	7200120F	水	3	9
経済	税務会計	泉 潤慈	教授	税法	1250170F	月	2	8
経済	税務会計	小林正和	准教授	販売管理論I	1230690F	月	1	109
人間文化	人間文化	田中久男	教授	英米の文学と思想1	2120530F	火	4	7
人間文化	人間文化	原 千史	教授	ヨーロッパの社会・思想・芸術1	2120880F	月	2	22
人間文化	人間文化	重迫隆司	准教授	現代芸術とサブカルチャー論	2120380F	金	3	31
人間文化	人間文化	西田 正	教授	日英比較文化 I	2122340F	木	3	17
人間文化	人間文化	柳川真由美	講師	日本の歴史と文化1	2120470F	木	2	21
人間文化	人間文化	脇 忠幸	講師	日本語学概論1	2120410	木	2	48
人間文化	人間文化	三浦省吾	非常勤	英語表現法1	2110540F	金	2	7
人間文化	人間文化	山代宏通	非常勤	ヨーロッパの歴史と文化1	2120570F	火	3	44
人間文化	人間文化	上村 崇	非常勤	ヨーロッパと日本の思想1	2120390F	火	3	12
人間文化	人間文化	橋村直機	非常勤	ヨーロッパ美術史1	2120590F	水	4	47
人間文化	人間文化	三村泰臣	非常勤	日本文化入門	2110070	金	3	19
人間文化	人間文化	佐藤 昭嗣	非常勤	日本古代の社会と文化1	2120760F	木	1	23
人間文化	人間文化	横山 昭正	非常勤	フランスの文学と思想1	2120960F	月	3	27
人間文化	人間文化	佐藤 和博	非常勤	イベント演習1	2110460F	水	4	51
人間文化	人間文化	柴原 直樹	非常勤	博物館資料論	2121270F	金	2	13

学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
人間文化	人間文化	金本 宣保	非常勤	国語科教育法1	9002710	金	3	3
人間文化	人間文化	和田 文雄	非常勤	社会・地歴科教育法	9002810	木	4	9
人間文化	人間文化	清水洋子	講師	中国語 I	1906101F	木	3	62
人間文化	人間文化	位藤邦生	教授	日本中世文学の鑑賞1	2120450F	火	4	27
人間文化	心理	平 伸二	教授	生理心理学	2320220F	水	1	34
人間文化	心理	青野篤子	教授	社会心理学	2110150F	火	2	55
人間文化	心理	橋本優花里	教授	認知心理学	2320160F	水	2	37
人間文化	心理	山崎理央	准教授	臨床心理学	2320120F	木	1	51
人間文化	心理	野寺 綾	准教授	教育心理学概論	2320180F	火	1	38
人間文化	メディア情報文化	三宅正太郎	教授	メディアと調査	2123300F	月	3	20
人間文化	メディア情報文化	内垣戸 貴之	准教授	プレゼンテーション	2123580F	金	2	11
人間文化	メディア情報文化	安田 堯	講師	色彩論	2123190F	月	5	49
人間文化	メディア情報文化	阿部 純	助教	メディア文化論	2123100F	月	2	89
人間文化	メディア情報文化	松田教道	非常勤	サウンドデザイン	2123710F	水	3	16
人間文化	メディア情報文化	大塚 勉	非常勤	プリントメディア制作(基礎)	2123230F	木	1	15
人間文化	メディア情報文化	中嶋 健明	非常勤	3DCG	2123780F	木	4,5	21
人間文化	メディア情報文化	林田 真心子	非常勤	アナウンス	2123490F	金	3,4	17
人間文化	メディア情報文化	熊谷 武洋	非常勤	ゲーム制作	2123480F	金	3,4	17
人間文化	メディア情報文化	奥原 寛樹	非常勤	マスメディア論	2123120F	火	2,3	24
工	電子・ロボット	栗延俊太郎	教授	デジタルシステム I	3121220F	金	4	21
工	電子・ロボット	宮内 克之	教授	地域防災基礎	0156020F	水	5	106
工	電子・ロボット	沖 俊任	准教授	CAD I	3120890F	月	2	14
工	電子・ロボット	來山弘通	非常勤	ものづくり加工法	3121260F	月	2	20
工	電子・ロボット	伍賀正典	准教授	ロボット制御	3121380F	水	1	12
工	電子・ロボット	田中 聡	准教授	プログラミング基礎	3121300F	水	1	23
工	建築・建設	大島秀明	教授	建築計画Ⅱ	3320110F	水	2	46
工	建築・建設	宮地 功	教授	設計製図演習Ⅲ	3320180F	火	1,2	44
工	建築・建設	田辺和康	教授	地学	3010290F	木	1	54
工	建築・建設	水上 優	准教授	設計製図演習 I	3320040F	月	3, 4	32
工	建築・建設	藤原美樹	講師	デザイン論	3310010F	水	2	33
工	建築・建設	山田 明	講師	建築一般構造	3321270F	金	3	41
工	建築・建設	酒井 要	助教	CG演習	3320730F	金	3・4	21
工	情報工	清水 光	教授	専門英語	3010332F	木	4	32
工	情報工	占部逸正	教授	論理回路	3421360F	金	3	50
工	情報工	新谷敏朗	准教授	データ構造とアルゴリズム I	3421240F	月	4	49
工	機械システム工	霧崎 展	教授	感性デザイン	3520950F	金	3	21
工	機械システム工	布施守雄	教授	機械設計製図基礎	3520010F	水	3	40
工	機械システム工	野西利次	教授	要素設計学	3521250F	水	3	49
工	機械システム工	坂口勝次	教授	熱力学	3521260F	月	2	54
工	機械システム工	中東 潤	准教授	デジタルデザイン	3521290F	金	2	26
工	機械システム工	小林正明	講師	計測工学	3520790F	月	1	51
生命工	生物工	藤田泰太郎	教授	微生物育種学	4120080	木	1	38名
生命工	生物工	秦野琢之	教授	バイオマス・資源リサイクル	4120940	火	1	40名
生命工	生物工	山口泰典	教授	動物機能利用学	4121510	金	1	39名
生命工	生物工	山本 寛	教授	動物生理学	4121230	水	1	41名
生命工	生物工	久富泰輔	教授	環境微生物学	4120880	火	2	40名
生命工	生物工	原口博行	教授	植物栄養生理学	4120870	金	2	35名
生命工	生物工	岩本博行	教授	化学 I	3010180	月	1	43名
生命工	生物工	太田雅也	教授	構造生化学	4120100	木	1	48名
生命工	生物工	広岡和文	准教授	化学Ⅱ	3010190	金	1	49名

学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
生命工	生命栄養科学	井ノ内直良	教授	食品科学	4210180F	水	1	37
生命工	生命栄養科学	井ノ内直良	教授	食品科学	4210181F	水	2	31
生命工	生命栄養科学	渡邊 誠	教授	解剖生理学II	4210110F	水	2	56
生命工	生命栄養科学	山本英二	教授	フードプロセス	4220710F	火	2	39
生命工	生命栄養科学	高橋知佐子	准教授	応用栄養学	4220931F	月	2	53
生命工	生命栄養科学	村上泰子	講師	食事摂取基準論	4221630F	木	1	53
生命工	生命栄養科学	平松智子	准教授	臨床栄養学Ⅱ	4221000F	月	1	41
生命工	生命栄養科学	小山峰志	非常勤	社会福祉概論	4210130F	金	2	55
生命工	海洋生物科学	南 卓志	教授	水産学概論	4320840F	火	2	116
生命工	海洋生物科学	倉掛昌裕	教授	食品衛生学	4321410F	金	2	20
生命工	海洋生物科学	阪本憲司	准教授	魚学概論	4321120F	水	1	110
生命工	海洋生物科学	渡辺伸一	講師	生物統計学	4010010F	木	2	99
生命工	海洋生物科学	水上雅晴	助教	観賞魚の飼育と繁殖	4321350F	水	1	81
生命工	海洋生物科学	伏見 浩	兼任教授	魚類の飼料と栄養	4321250F	月	2	79
薬	薬	吉富博則	教授	薬物動態Ⅱ	5120840F	木	1	88
薬	薬	福長将仁	教授	感染症にかかる	5120740F	月	2	84
薬	薬	岡村信幸	教授	薬になる動植物	5130260F	金	2	97
薬	薬	日比野 俐	教授	医薬品開発Ⅱ	5131110F	金	3	98
薬	薬	塩見浩人	教授	眼・耳鼻咽喉・皮膚疾患と薬物治療	5120910F	水	1	11
薬	薬	塩見浩人	教授	眼・耳鼻咽喉・皮膚疾患と薬物治療	5130870F	水	1	74
薬	薬	大瀧 修	特任教授	テーラーメイド薬物治療	5130900F	金	2	87
薬	薬	廣瀬順造	教授	生体分子の立体構造	5130050F	金	1	100
薬	薬	金尾義治	教授	薬物の臓器への到達と消失	5130760F	金	1	90
薬	薬	宇野勝次	教授	骨・関節、アレルギー・免疫疾患と薬物治療	5130860F 5120900F	火	2	87
薬	薬	藤岡晴人	教授	官能基と構造解析	5130250F	水	1	100
薬	薬	森田哲生	教授	生命活動を担うタンパク質	5130440F	火	1	110
薬	薬	富田久夫	教授	製剤材料の性質	5130770F	木	3	85
薬	薬	石津 隆	教授	医薬品管理	5131130F	木	2	86
薬	薬	江藤精二	教授	患者情報	5130890F	火	1	87
薬	薬	江藤精二	教授	悪性腫瘍と薬物治療	5120880F	月	1	90
薬	薬	片山博和	教授	医薬品情報	5121140F	金	3	87
薬	薬	杉原成美	教授	疾病の予防	5120640F	金	4	77
薬	薬	杉原成美	教授	疾病の予防	5130640F	金	4	10
薬	薬	数野 博	非常勤	ファーマシューティカルケア総合演習	5121210F	水	3.4	19
薬	薬	井上敦子	教授	消化器系疾患と薬物治療	5130830F-2	土	1	88
薬	薬	田中哲郎	教授	薬物動態の解析Ⅱ	5130840-3	木	1	88
薬	薬	大橋一慶	教授	化学の基礎A	0110670F	水	1	164
薬	薬	田村 豊	教授	人体の構造と機能Ⅰ	5130410F	木	1	169
薬	薬	町支臣成	教授	ターゲット分子の合成	5130270F	金	1	105
薬	薬	町支臣成	教授	ターゲット分子の合成	5120270F	金	1	4
薬	薬	小嶋英二郎	准教授	臨床検査	5120920F	金	1	87
薬	薬	井上裕文	准教授	化学物質の検出と定量	5130040F	木	2	98
薬	薬	井上裕文	准教授	化学物質の検出と定量	5120040F	木	2	2
薬	薬	秦 季之	准教授	物質の構造Ⅰ	5130030F	火	2	102
薬	薬	秦 季之	准教授	物質の変化	5130110F	水	2	88
薬	薬	道原明宏	准教授	バイオ医薬品とゲノム情報	5130910F	木	4	63
薬	薬	村上信行	客員教授	社会保障制度と薬剤経済	5131141F	水	2	87
薬	薬	五郎丸 剛	准教授	患者情報	5130890F	火	1	87
薬	薬	田淵紀彦	講師	生体防御Ⅰ	5130510F	木	2	89
薬	薬	大西正俊	講師	薬学英語Ⅰ	5110240F	木	3	99

学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
薬	薬	土谷大樹	講師	生体機能調節	5120490F	水	2	105
薬	薬	松岡浩史	講師	遺伝子进行操作する	5120520F	月	1	90
薬	薬	吉田智郎	非常勤	消化器系疾患と薬物治療	5130830F 5120850F	土	1,2	95
大学教育センター		荒木紀幸	教授	発達心理学	0140801F	水	3	142
大学教育センター		地主弘幸	准教授	情報処理 I	1116015F	水	2	37
大学教育センター		鶴崎健一	准教授	暮らしとバイオ	0112200F	水	2	114
大学教育センター		小野太幹	准教授	数理科学	0110252F	火	3	36
大学教育センター		山口昌宏	講師	数理科学	0110251F	木	4	51
大学教育センター		若松正晃	講師	英語発展 I	1930104F	木	3	54
大学教育センター		J.R.Brabc	講師	英会話(I)	1931028F	水	5	25
大学教育センター		L.A.kurotobi	講師	英会話(I)	1931007F	金	3	48
大学教育センター		瀬島紀夫	講師	情報処理 I	1116005F	月	3	42
大学教育センター		丹藤浩二	客員教授	文明環境論	0130250F	火	1	26
大学教育センター		和田文雄	非常勤	自然地理(1)	0111300F	木	2	71
大学教育センター		柴原直樹	非常勤	日本史(1)	0130101F	金	3	143
大学教育センター		斎藤拓海	非常勤	日本史(1)	0130106F	水	3	69
大学教育センター		田中 健	非常勤	哲学(1)	0140100F	水	3	106
大学教育センター		上村 崇	非常勤	倫理学(1)	0140400F	火	4	83
大学教育センター		金川洋臣	非常勤	書道	0150100F	火	3	29
大学教育センター		藤本明成	非常勤	陶芸	0150301F	水	4	25
大学教育センター		渋谷 清	非常勤	絵画	0150250F	火	4	20
大学教育センター		大村 浩	非常勤	柔道(1)	0150900F	水	4	33
大学教育センター		的場千尋	非常勤	体育(1)	0150605F	木	2	29
大学教育センター		神野靖子	非常勤	音楽	0150400F	木	2	16
大学教育センター		田中宏和	非常勤	憲法(1)	0120100F	金	1	300
大学教育センター		中元さおり	非常勤	日本語表現法	1307315F	月	4	64
大学教育センター		宮田朋恵	非常勤	国語表現法 I	1307308F	水	2	43
大学教育センター		金本直保	非常勤	日本語表現法	1307311F	木	4	59
大学教育センター		劉 国彬	非常勤	中国語(I)	1906108F	火	2	36
大学教育センター		末葭敏久	非常勤	中国語(I)	1906104F	火	3	78
大学教育センター		石井成人	非常勤	フランス語(I)	0190510F-1	火	3	153
大学教育センター		赤松頌也	非常勤	フランス語(I)	0190510F-2	火	3	
大学教育センター		山内優佳	非常勤	英語(I)	1902125F	火	4	45
大学教育センター		池田幸恵	非常勤	英語(I)	1902127F	木	2	44
大学教育センター		三浦省五	非常勤	英語(I)	1902101F	水	2	45

平成 25 年度（後期） 授業評価アンケート実施科目一覧

学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
経済	経済	藤井隆雄	准教授	マクロ経済学 I	1125272F	月	4	124
経済	経済	筒本和弘	教授	Webデザイン II	1270070F	水	3	61
経済	経済	三川 敦	准教授	経済数学 I	1220452F	水	2	27
経済	経済	吉田卓史	准教授	スポーツ理論 II	1240050F	火	3	24
経済	経済	石丸敬二	准教授	情報処理 II	1210043F	火	2	42
経済	経済	磯崎紀夫	非常勤	不動産・相続基礎 II	1230360F	火	4	49
経済	経済	若林 暁	非常勤	スポーツ救急技法	1241050F	木	2	38
経済	経済	門田正久	非常勤	スポーツ救急技法	1241050F	木	2	38
経済	経済	平田宏二	教授	地方財政論 II	1220380F	水	2	47
経済	経済	塚原一郎義治	准教授	金融論 II	1220090F	水	3	115
経済	経済	岩見孝之	非常勤	リスク管理・金融応用 II	1230640F	火	2	11
経済	経済	宮田朋恵	非常勤	国語表現法 II	1210021F	月	3	41
経済	税務会計	伊藤裕一	教授	情報処理II	1210040F	月	1	36
人間文化	人間文化	青木美保	教授	日本語表現法2	2110223F	水	2	38
人間文化	人間文化	岡 晃弘	教授	ドイツ文化入門	2110520F	水	1	42
人間文化	人間文化	川地洋一	教授	教育制度論	0121600F	木	4	54
人間文化	人間文化	大江和彦	非常勤	社会・地歴科教育法	9002810	木	4	9
人間文化	心理	堤 俊彦	教授	障害者心理学	2320040F	水	2	51
人間文化	心理	日下部典子	准教授	学校教育と心理学	2310040F	水	3	76
人間文化	心理	川人潤子	講師	臨床心理検査法	2320080F	水	2	30
人間文化	心理	金平 希	助教	教育臨床心理学	2320020F	木	1	81
人間文化	メディア情報文化	田中始男	教授	基礎情報処理 II	2210060F	金	2	18
人間文化	メディア情報文化	渡辺浩司	准教授	マルチメディア論	2220430F 3421410F	火	1	42
人間文化	メディア情報文化	田中聡登	非常勤	広告制作	2123460F	木	2	10
人間文化	メディア情報文化	田中聡登	非常勤	企画・プロデュース論	2123670F	木	3	14
工	電子・ロボット工	三谷康夫	教授	音声認識・音響合成	3121430F	水	2	10
工	電子・ロボット工	三宅雅保	教授	半導体工学	3121080F	金	2	21
工	電子・ロボット工	香川直己	教授	回路理論 I	3120040F	火	1	23
工	電子・ロボット工	宮内克之	教授	コンクリート工学 II	3220440F	金	2	10
工	電子・ロボット工	宮内克之	教授	地域防災応用	0156030F	水	5	90
工	情報工	千葉利晃	教授	デジタル信号処理	3420130F	木	3	21
工	情報工	尾関孝史	教授	オペレーティングシステム	3420340F	水	3	41
工	情報工	中道 上	准教授	ソフトウェア工学	3421160F	水	2	44
工	情報工	宮崎光二	講師	プログラミング入門	3420950F	木	3	43
工	情報工	服部 進	教授	コンピュータアーキテクチャ	3421670F	火	4	45
工	情報工	中村雅樹	助教	橋梁工学	3220450F	火	3	9
工	情報工	片桐重和	助教	実用ソフトウェア	3421290F	木	1	32
工	情報工	中嶋健明	非常勤	Webデザイン	3420880F	水	3.4隔週	27
工	情報工	樽谷昭彦	非常勤	コンピュータグラフィックス	3420380F	火	2	44
工	機械システム工	真鍋圭司	教授	材料力学 II	3520230F	金	1	46
工	機械システム工	木村純壮	教授	システム制御入門	3520240F	木	4	30
工	機械システム工	矢田順三	非常勤	熱エネルギー工学	3521270F	金	3	32
生命工	生物工	松崎浩明	教授	遺伝子工学	4120200	木	1	43
生命工	生物工	佐藤 淳	講師	地球環境科学・環境社会学	4120780	月	2	63
生命工	生物工	壺井基夫	併任教授	細胞生物学	4121020	月	1	50
生命工	生物工	池田達哉	客員教授	植物分子育種学	4120190	土	1・2	38
生命工	生物工	今井俊治	客員教授	植物栽培技術	4120830	金	3・4	35
生命工	生命栄養科学	淵上倫子	教授	調理学	4210171F	水	1	63
生命工	生命栄養科学	淵上倫子	教授	調理学	4210170F	木	1	
生命工	生命栄養科学	石崎由美子	教授	環境・スポーツ栄養学	4221640F	火	2	53

学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
生命工	生命栄養科学	菊田安至	教授	公衆衛生学	4220420F	水	1	52
生命工	生命栄養科学	木村安美	教授	公衆栄養学	4220940F	金	2	55
生命工	生命栄養科学	石井香代子	准教授	給食マネジメント I	4221610F	木	1	53
生命工	生命栄養科学	中浦嘉子	助教	食品分析化学	4220050F	金	1	55
生命工	生命栄養科学	池田達哉	非常勤	遺伝子組換え食品	4220880F	土	1,2	42
生命工	海洋生物科学	三輪泰彦	教授	基礎分子生物学	4310020F	水	2	105
生命工	海洋生物科学	満谷 淳	教授	海洋生態学	4320080F	木	1	125
生命工	海洋生物科学	河原栄二郎	教授	魚介類の疾病と予防	4321270F	木	1	80
生命工	海洋生物科学	高村克美	教授	動物分類学	4321130F	月	2	114
生命工	海洋生物科学	北口博隆	准教授	海洋環境科学	4320010F	水	1	119
生命工	海洋生物科学	山岸幸正	講師	海洋植物分類学	4321140F	金	2	99
薬	薬	福長将仁	教授	小さな生き物たち	5130500F	月	2	84
薬	薬	岡村信幸	教授	漢方薬物Ⅱ	5130240F	月	2	165
薬	薬	菅 奈奈美	非常勤	医療コミュニケーション	5130930F	金	2	88
薬	薬	小嶋英二郎	准教授	化学物質の分析、臨床応用	5130090F	金	2	105
薬	薬	本屋敷敏雄	准教授	生体エネルギー	5130460F	月	2	102
薬	薬	西尾廣昭	教授	血液・造血器系疾患と薬物治療	5130730F-1	水	1	88
薬	薬	西尾廣昭	教授	血液・造血器系疾患と薬物治療	5120730F-1	水	1	1
薬	薬	椎木滋雄	非常勤	血液・造血器系疾患と薬物治療	5130730F-2	水	1	88
薬	薬	椎木滋雄	非常勤	血液・造血器系疾患と薬物治療	5120730F-2	水	1	1
薬	薬	塩見浩人	教授	薬物作用の基礎	5130720F	火	1	99
薬	薬	澁谷博孝	教授	天然物化学	5130280F	金	3	97
薬	薬	宇野勝次	教授	生体防御Ⅱ	5130520F 5120540F	火	1	86
薬	薬	赤崎健司	教授	生命体の基本単位としての細胞	5130430F	木	2	167
薬	薬	佐藤英治	教授	調剤	5230750F	金	1	89
薬	薬	堤 広之	助教	医薬品開発Ⅰ	5121110F	月	1	98
薬	薬	秦 季之	准教授	物質の状態Ⅰ	5130010F	月	1	168
薬	薬	道原明宏	准教授	化学物質の生体への影響	5130620F 5120620F	木	3	90
薬	薬	上敷領 淳	講師	食品衛生	5130610F	金	2	88
薬	薬	上敷領 淳	講師	食品衛生	5120610F	金	2	3
薬	薬	鶴田泰人	教授	生体中の金属・分子を解析する方法	5130080F	木	2	101
大学教育センター		棚橋久美子	非常勤	日本史(2)	0130206F	水	3	54
大学教育センター		山本賢太郎	非常勤	囲碁から学ぶ人間学	0151750F	水	4	24
大学教育センター		菅波真吾	非常勤	剣道(2)	0150200F	金	2	2

学生による授業評価と自己点検アンケート

この科目の授業に関する次の各質問の回答として最も適切な選択肢の に、
 レをばっさり記入してください。

【質問1】 教員の授業の進め方は適切ですか？（板書、パワーポイントあるいは配布プリント、テキストなどを含めて）

- 適切である ほぼ適切である どちらとも言えない
 やや不適切である 不適切である

【質問2】 教員の話し方は明瞭ですか？（聞き取りやすいですか？）

- 聞き取りやすい ほぼ聞き取りやすい どちらとも言えない
 やや聞き取りにくい 大変聞き取りにくい

【質問3】 授業はシラバス通りに行われていますか？

- 行われている ほぼ行われている どちらとも言えない
 やや異なっている 全く異なっている シラバスを読んでいない

【質問4】 教員は、1 講義時間（90分）の授業時間を確保していますか？

- 守っている ほぼ守っている どちらとも言えない
 やや守っていない 守っていない

【質問5】 教員は、科目内容を理解しやすくするように工夫していると思えますか？

- 思う やや思う どちらとも言えない あまり思わない 全く思わない

【質問6】 教員は、あなたの質問に誠意をもって答えますか？（質問したことがある方のみ答えてください）

- 誠意をもって答える ほぼ誠意をもって答える どちらとも言えない
 やや誠意が感じられない 誠意が感じられない

【質問7】 この科目はやりがいや手応え、また将来に役立つと感じるものですか？

- 大いに感じる やや感じる どちらとも言えない
 あまり感じない 全く感じない

【質問8】 この科目に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください。

- 満足 ほぼ満足 どちらとも言えない やや不満である 不満である

【質問9】 この授業に対して、予習、復習などの自己学習を行っていますか？

- 必ず行う ほぼ行う ときどき行う
 あまり行わない 全く行わない

【質問10】 授業中に私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることなどはありますか？

- 全くない ほとんどない どちらとも言えない
 しばしばある 毎回ある

【質問11】 授業には特別な事情（公認欠席、忌引きなど）を除き、出席していますか？

- 全出席 ほぼ出席 ときどき欠席する
 やや欠席が多い 欠席が大半多い

【質問12】 この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？

- 大いに深まっている やや深まっている どちらとも言えない
 あまり深まっていない 全く深まっていない

【質問13】 あなたは、自ら講義内容を理解するため、ノートや講話の聞き方などの工夫や配慮を行っていますか？

- 積極的に行っている かなり行っている 行おうと思っている
 あまり行っていない 全く行っていない

【質問14】 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？

- 学修が十分進んでおり、質問の必要がない しばしば質問する ときどき質問する
 質問はあるが、積極的に取り進んでいないため、質問すべきことが少ない

【質問15】 この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思えますか？

- 大いに思う やや思う どちらとも言えない
 あまり思わない 全く思わない

【質問16】 この科目であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。

- 十分に成果があがっている 少し成果があがっている どちらとも言えない
 あまり成果があがっていない 全く成果があがっていない

この授業について、特に意見があれば表面の自由記述欄に記入してください。

平成25年度前期 授業評価・自己点検アンケート結果に対する報告書

担当教員	氏名	所属学部・学科	
		学部	学科
講義名		科目分類 (不要な方を消去する)	受講者数
		共通教育科目 専門科目	名

お手数ですがこの科目のアンケート集計結果を各質問毎に記載してください

質問1 進め方	質問2 話し方	質問3 計画性	質問4 授業時間	質問5 講義の工夫	質問6 質問への誠意	質問7 難易度の適切性	質問8 満足度
質問9 授業の準備	質問10 集中力	質問11 出席状況	質問12 知識の深まり	質問13 受講の工夫	質問14 質問への積極性	質問15 意欲の高まり	質問16 学修の成果

◆アンケート結果の学生へのフィードバック方法

--

◆この講義に対する学生の評価結果について (アンケートの質問1～質問8が該当します)

○高く評価された事項
○改善を求められている事項
○今後の授業改善の計画

◆この講義を受講した学生の自己点検結果について (アンケートの質問9～質問16が該当します)

○学習成果という点でこの結果をどのように考えますか
○学生の学習成果を望ましい方向に進展させる方策はありますか

3. 調査結果

「学生による授業評価アンケート」の集計結果は各科目、学科、学部、全学の単位で集計しており、それぞれの責任者に報告している。本報告書に全てを掲載すると膨大な内容となるため、学部、および全学の単位について掲載することにした。また、平成 25 年度から大学教育センターに設置された教学 IR (Institutional Research) 部門が、「学生による授業評価アンケート」の集計データから得られる教育改善に向けた提言を行い、本報告書では調査結果の傾向を報告することにする。

(1) アンケート実施状況について

このアンケート調査は授業時間の一部を利用して、配布した設問用紙に回答後に回収しており、比較的高い回収率を得ることができた。平成 25 年度前期 (表 1-1)、後期 (表 1-2)、および通年 (表 1-3) のアンケート回答率は、全学でそれぞれ前期が 79.6%、後期が 85.6%、通年で 81.7% となり、いずれも前年度を上回った。学部間で比較すると薬学部の回答率が通年で 87.8% と高い回答率を示したが、経済学部、人間文化学部、工学部では回答率が 80% を下回った。すべての学部で 80% を上回る回答率を目指し、教育改革に当たってより全体の学生の回答を反映できるように改善を図りたい。

表 1-1 学生による授業評価アンケート (前期) <回収率について>

学部	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
受講者数	10,488	1,742	1,082	854	1,448	3,277	2,085
回答者数	8,350	1,408	779	612	1,103	2,770	1,678
回答率	79.6%	80.8%	72.0%	71.7%	76.2%	84.5%	80.5%

表 1-2 学生による授業評価アンケート (後期) <回収率について>

学部	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
受講者数	5,721	785	532	700	1,514	2,091	99
回答者数	4,897	600	404	583	1,280	1,944	86
回答率	85.6%	76.4%	75.9%	83.3%	84.5%	93.0%	86.9%

表 1-3 学生による授業評価アンケート (前期/後期) <回収率について>

学部	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
受講者数	16,209	2,527	1,614	1,554	2,962	5,368	2,184
回答者数	13,247	2,008	1,183	1,195	2,383	4,714	1,764
回答率	81.7%	79.5%	73.3%	76.9%	80.5%	87.8%	80.8%

(2) 調査結果の内容 (学生による授業評価結果について)

① 授業の進め方について

表 2-1、2-2、2-3 に示すように、教員の授業の進め方はすべての学部で高く評価されている。全学の評価平均は通年で 4.24 であり、人間文化学部は 4.34 という高い評価であった。このことから、教員の授業の進め方については、概ね適切に実施されていると評価することができる。ただし、

一部の科目については改善を強く求められているものも存在した。

表 2-1 学生による授業評価アンケート（前期） <授業の進め方について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問1】進行 教員の授業の 進め方は適切 ですか？	適切である	5	3738	677	381	226	510	1179	765
	ほぼ適切である	4	3188	486	318	249	435	1102	598
	どちらともいえない	3	1102	169	65	114	129	372	253
	やや不適切である	2	203	46	14	16	20	76	31
	不適切である	1	116	29	1	6	9	40	31
	平均点		4.23	4.23	4.37	4.10	4.28	4.19	4.21

表 2-2 学生による授業評価アンケート（後期） <授業の進め方について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問1】進行 教員の授業の 進め方は適切 ですか？	適切である	5	2268	338	190	249	602	840	49
	ほぼ適切である	4	1908	192	152	244	450	838	32
	どちらともいえない	3	540	51	48	67	158	214	2
	やや不適切である	2	130	11	10	18	50	38	3
	不適切である	1	41	7	3	1	19	11	0
	平均点		4.28	4.41	4.28	4.25	4.22	4.27	4.48

表 2-3 学生による授業評価アンケート（前期/後期） <授業の進め方について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問1】進行 教員の授業の 進め方は適切 ですか？	適切である	5	6006	1015	571	475	1112	2019	814
	ほぼ適切である	4	5096	678	470	493	885	1940	630
	どちらともいえない	3	1642	220	113	181	287	586	255
	やや不適切である	2	333	57	24	34	70	114	34
	不適切である	1	157	36	4	7	28	51	31
	平均点		4.24	4.29	4.34	4.17	4.25	4.22	4.23

② 話し方について

教員の話し方はすべての学部で高く評価されている（表 3-1、3-2、3-3）。全学の平均評価は通年で 4.20 であった。このことから、話し方については、概ね改善が図られていると評価することができる。ただし、一部の科目については改善を強く求められているものも存在した。

表 3-1 学生による授業評価アンケート（前期） <話し方について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問2】話し 方 教員の話し方 は明瞭です か？	聞き取りやすい	5	3896	654	450	211	530	1280	771
	ほぼ聞き取りやすい	4	2925	449	262	242	381	1065	526
	どちらともいえない	3	966	169	52	103	124	296	222
	やや聞き取りにくい	2	417	95	14	43	54	106	105
	大変聞き取りにくい	1	145	41	1	12	14	23	54
	平均点		4.20	4.12	4.47	3.98	4.23	4.25	4.11

表 3-2 学生による授業評価アンケート（後期） <話し方について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問2】話し方は明瞭ですか？	聞き取りやすい	5	2223	316	209	238	564	839	57
	ほぼ聞き取りやすい	4	1788	190	131	235	436	774	22
	どちらともいえない	3	543	60	38	78	146	215	6
	やや聞き取りにくい	2	258	24	16	23	100	94	1
	大変聞き取りにくい	1	72	6	7	7	33	19	0
	平均点		4.19	4.32	4.29	4.16	4.09	4.20	4.57

表 3-3 学生による授業評価アンケート（前期/後期） <話し方について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問2】話し方は明瞭ですか？	聞き取りやすい	5	6119	970	659	449	1094	2119	828
	ほぼ聞き取りやすい	4	4713	639	393	477	817	1839	548
	どちらともいえない	3	1509	229	90	181	270	511	228
	やや聞き取りにくい	2	675	119	30	66	154	200	106
	大変聞き取りにくい	1	217	47	8	19	47	42	54
	平均点		4.20	4.18	4.41	4.07	4.16	4.23	4.13

③ 授業の計画性について

授業の計画性はすべての学部で高く評価されており、本学における授業がシラバスに基づいて実施されていると評価できる（表 4-1、4-2、4-3）。しかしながら、シラバスを読んでいないという回答が 26.1%存在（表 4-3）することは、問題点として指摘される。

表 4-1 学生による授業評価アンケート（前期） <計画性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問3】計画性はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	3080	597	299	198	379	972	635
	ほぼ行われている	4	2381	450	257	202	340	608	524
	どちらとも言えない	3	714	149	77	68	93	155	172
	やや異なっている	2	50	9	6	3	6	14	12
	全く異なっている	1	20	6	1	2	1	4	6
	シラバスを読んでいない	0	2094	193	139	137	284	1012	329
	平均点		4.35	4.34	4.32	4.25	4.33	4.44	4.31

表 4-2 学生による授業評価アンケート（後期） <計画性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問3】計画性はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	1752	281	159	189	447	640	36
	ほぼ行われている	4	1355	169	135	195	356	477	23
	どちらとも言えない	3	376	49	27	51	134	103	12
	やや異なっている	2	27	7	1	2	12	5	0
	全く異なっている	1	10	3	0	1	5	1	0
	シラバスを読んでいない	0	1356	87	77	143	323	712	14
平均点		4.37	4.41	4.40	4.30	4.29	4.43	4.34	

表 4-3 学生による授業評価アンケート（前期/後期） <計画性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問3】計画性はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	4832	878	458	387	826	1612	671
	ほぼ行われている	4	3736	619	392	397	696	1085	547
	どちらとも言えない	3	1090	198	104	119	227	258	184
	やや異なっている	2	77	16	7	5	18	19	12
	全く異なっている	1	30	9	1	3	6	5	6
	シラバスを読んでいない	0	3450	280	216	280	607	1724	343
平均点		4.36	4.36	4.35	4.27	4.31	4.44	4.31	

④ 授業時間について

授業時間については、ほぼ全ての授業で厳守されており評価平均は 4.53 であった。「守っている」と「ほぼ守っている」を併せると 92.8%であった(表 5-1、5-2、5-3)。よって本学における授業は開始時間と終了時間が厳密に守られていると評価することができる。

表 5-1 学生による授業評価アンケート(前期) <時間について>

質問	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
【質問4】時間 教員は、1講義(90分)の授業時間を確保していますか?	守っている	5	5174	862	534	332	686	1805	955
	ほぼ守っている	4	2573	431	212	219	366	789	556
	どちらとも言えない	3	470	90	26	46	43	135	130
	やや守っていない	2	62	9	5	9	2	16	21
	守っていない	1	50	14	2	4	5	13	12
	平均点		4.53	4.51	4.63	4.42	4.57	4.58	4.45

表 5-2 学生による授業評価アンケート(後期) <時間について>

質問	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
【質問4】時間 教員は、1講義(90分)の授業時間を確保していますか?	守っている	5	3008	382	247	357	750	1221	51
	ほぼ守っている	4	1493	187	130	180	383	593	20
	どちらとも言えない	3	267	22	16	33	86	99	11
	やや守っていない	2	68	3	6	5	35	16	3
	守っていない	1	31	3	1	3	20	3	1
	平均点		4.52	4.58	4.54	4.53	4.42	4.56	4.36

表 5-3 学生による授業評価アンケート(前期/後期) <時間について>

質問	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
【質問4】時間 教員は、1講義(90分)の授業時間を確保していますか?	守っている	5	8182	1244	781	689	1436	3026	1006
	ほぼ守っている	4	4066	618	342	399	749	1382	576
	どちらとも言えない	3	737	112	42	79	129	234	141
	やや守っていない	2	130	12	11	14	37	32	24
	守っていない	1	81	17	3	7	25	16	13
	平均点		4.53	4.53	4.60	4.47	4.49	4.57	4.44

⑤ 講義の工夫について

担当教員の講義の工夫については、全学では 4.08 と高い評価平均であるが、設問項目の中では比較的低い評価であった(表 6-1、6-2、6-3)。また、学部間での評価に違いが認められた。昨年に続き、工学部の評価が最も低く改善の余地が残されている。

表 6-1 学生による授業評価アンケート(前期) <講義の工夫について>

質問	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
【質問5】講義の工夫 教員は、科目内容を理解しやすくするように工夫していると思いますか?	思う	5	3434	596	383	195	439	1170	651
	やや思う	4	2655	380	256	179	384	934	522
	どちらとも言えない	3	1670	295	104	172	221	503	375
	あまり思わない	2	426	92	28	52	49	110	95
	全く思わない	1	138	41	7	12	10	37	31
	平均点		4.06	4.00	4.26	3.81	4.08	4.12	4.00

表6-2 学生による授業評価アンケート（後期） <講義の工夫について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問5】講義の工夫 教員は、科目内容を理解しやすくするように工夫していると思いますか？	思う	5	2019	303	167	212	502	783	52
	やや思う	4	1654	174	139	202	418	700	21
	どちらとも言えない	3	924	92	76	127	254	366	9
	あまり思わない	2	216	20	15	30	76	73	2
	全く思わない	1	48	5	4	8	21	10	0
	平均点		4.11	4.26	4.12	4.00	4.03	4.12	4.46

表6-3 学生による授業評価アンケート（前期/後期） <講義の工夫について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問5】講義の工夫 教員は、科目内容を理解しやすくするように工夫していると思いますか？	思う	5	5453	899	550	407	941	1953	703
	やや思う	4	4309	554	395	381	802	1634	543
	どちらとも言えない	3	2594	387	180	299	475	869	384
	あまり思わない	2	642	112	43	82	125	183	97
	全く思わない	1	186	46	11	20	31	47	31
	平均点		4.08	4.08	4.21	3.90	4.05	4.12	4.02

⑥ 質問への誠意について

学生からの質問への誠意については、全学では 4.22 と高い評価平均であった(表 7-1、7-2、7-3)。この結果から、教員は誠意をもって答えていると評価できる。授業進行中や終了時の回答、出席表に書き込める質問への回答、オフィスタイムを利用した回答など、教員の努力が認められる。

表7-1 学生による授業評価アンケート（前期） <質問への誠意について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問6】質問への誠意 教員は、学生の質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	2980	569	391	204	404	897	515
	ほぼ誠意をもって答える	4	1989	327	209	153	267	650	383
	どちらとも言えない	3	1252	259	80	137	155	329	292
	やや誠意が感じられない	2	60	11	2	9	6	13	19
	誠意が感じられない	1	73	17	2	8	11	11	24
	平均点		4.22	4.20	4.44	4.05	4.24	4.27	4.09

表7-2 学生による授業評価アンケート（後期） <質問への誠意について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問6】質問への誠意 教員は、学生の質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	1667	267	161	201	440	560	38
	ほぼ誠意をもって答える	4	1164	152	104	160	300	429	19
	どちらとも言えない	3	714	75	57	99	221	247	15
	やや誠意が感じられない	2	22	4	2	5	4	7	0
	誠意が感じられない	1	36	6	2	5	13	10	0
	平均点		4.22	4.33	4.29	4.16	4.18	4.21	4.32

表7-3 学生による授業評価アンケート（前期/後期） <質問への誠意について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問6】質問への誠意 教員は、学生の質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	4647	836	552	405	844	1457	553
	ほぼ誠意をもって答える	4	3153	479	313	313	567	1079	402
	どちらとも言えない	3	1966	334	137	236	376	576	307
	やや誠意が感じられない	2	82	15	4	14	10	20	19
	誠意が感じられない	1	109	23	4	13	24	21	24
	平均点		4.22	4.24	4.39	4.10	4.21	4.25	4.10

⑦ 難易度の適切性について

難易度の適切性については、設問項目の中では低い評価であり、全学の評価平均は 4.03 であった（表 8-1、8-2、8-3）。理系、文系学部間の差はほとんど見られないが、大学教育センターに属する科目の平均が低くなっている。大学教育センターに属する科目は、広い範囲の分野に対し学部を超えて受講生がいるため、多様な学生を意識した難易度設定の必要があると考えられる。

表 8-1 学生による授業評価アンケート（前期） <難易度の適切性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 7】難易の適切性 この科目はやりがいや手応え、また将来に役立つと感じるものですか？	大いに感じる	5	2731	533	276	199	361	927	435
	やや感じる	4	3679	564	346	242	518	1334	675
	どちらとも言えない	3	1394	200	112	124	172	401	385
	あまり感じない	2	345	72	31	30	36	70	106
	全く感じない	1	199	39	14	17	16	38	75
	平均点		4.01	4.05	4.08	3.94	4.06	4.10	3.77

表 8-2 学生による授業評価アンケート（後期） <難易度の適切性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 7】難易の適切性 この科目はやりがいや手応え、また将来に役立つと感じるものですか？	大いに感じる	5	1626	252	133	189	382	642	28
	やや感じる	4	2318	261	181	263	613	964	36
	どちらとも言えない	3	703	66	62	104	192	263	16
	あまり感じない	2	149	11	14	14	57	50	3
	全く感じない	1	78	10	6	10	32	18	2
	平均点		4.08	4.22	4.06	4.05	3.98	4.12	4.00

表 8-3 学生による授業評価アンケート（前期/後期） <難易度の適切性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 7】難易の適切性 この科目はやりがいや手応え、また将来に役立つと感じるものですか？	大いに感じる	5	4357	785	409	388	743	1569	463
	やや感じる	4	5997	825	527	505	1131	2298	711
	どちらとも言えない	3	2097	266	174	228	364	664	401
	あまり感じない	2	494	83	45	44	93	120	109
	全く感じない	1	277	49	20	27	48	56	77
	平均点		4.03	4.10	4.07	3.99	4.02	4.11	3.78

⑧ 講義の満足度について

講義に対する満足度は、授業評価 8 項目の中で最も低い評価であり、通年全学の評価平均は 3.95 であった（表 9-1、9-2、9-3）。評価は学部間に大きな差は認められないが、通年で 4.0 を超える評価を受けたのは人間文化学部のみであった。満足度の評価が低いのは、講義内容の難易度の適切性と関係がある可能性が指摘される。評価平均ではなく個々の授業科目について詳細に解析することで相関性を見出すことが可能かもしれない。また、最も高い得点（5 点）となる「満足」に対する回答数が少ないことが平均値を下げる原因となっている。完全な満足を念頭に回答するためには、良い授業に対してもさらに深く修得したかった故に「ほぼ満足」にしている例も含まれていることが考えられ、選択肢の再検討も考慮する必要があると推察される。

表 9-1 学生による授業評価アンケート（前期） <講義の満足度について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 8】講義の満足度 この科目に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください。	満足	5	2480	462	260	146	300	859	453
	ほぼ満足	4	3176	462	345	215	453	1148	553
	どちらとも言えない	3	2061	348	133	185	286	609	500
	やや不満である	2	437	86	28	53	50	109	111
	不満である	1	160	38	8	12	12	40	50
	平均点		3.89	3.88	4.06	3.70	3.89	3.97	3.75

表 9-2 学生による授業評価アンケート（後期） <講義の満足度について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 8】講義の満足度 この科目に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください。	満足	5	1413	220	121	151	355	529	37
	ほぼ満足	4	1971	217	168	240	492	830	24
	どちらとも言えない	3	1157	122	77	140	324	473	21
	やや不満である	2	160	20	22	23	43	51	1
	不満である	1	59	8	1	5	25	19	1
	平均点		3.95	4.06	3.99	3.91	3.90	3.95	4.13

表 9-3 学生による授業評価アンケート（前期/後期） <講義の満足度について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 8】講義の満足度 この科目に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください。	満足	5	3893	682	381	297	655	1388	490
	ほぼ満足	4	5147	679	513	455	945	1978	577
	どちらとも言えない	3	3218	470	210	325	610	1082	521
	やや不満である	2	597	106	50	76	93	160	112
	不満である	1	219	46	9	17	37	59	51
	平均点		3.91	3.93	4.04	3.80	3.89	3.96	3.77

(3) 調査結果の内容（学生の自己点検）

① 授業の準備について

講義に臨むにあたり、授業の予習や復習をする学生の割合は極めて低く、「あまり行わない」と「全く行わない」という回答を併せると、全学通年で 47.8%を占める（表 10-1、10-2、10-3）。予習と復習の習慣を身につけさせることによって、単位の実質化を図る方策の早急な実施が求められる。また、平成 26 年度からシラバスに単元毎の予習を記入することを指示しており、学修時間の確保に関して効果が上がることが期待される。

表 10-1 学生による自己点検アンケート（前期） <授業の準備について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 9】授業の準備 この授業に対して、予習、復習などの自己学習を行っていますか？	必ず行う	5	800	198	53	52	66	257	174
	ほぼ行う	4	1216	223	132	80	166	414	201
	ときどき行う	3	2446	401	220	179	330	915	401
	あまり行わない	2	2024	278	185	161	295	760	345
	全く行わない	1	1860	306	189	139	245	424	557
	平均点		2.65	2.81	2.58	2.58	2.56	2.75	2.46

表 10-2 学生による自己点検アンケート（後期） <授業の準備について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 9】授業の準備 この授業に対して、予習、復習などの自己学習を行っていますか？	必ず行う	5	396	79	57	41	81	136	2
	ほぼ行う	4	680	94	90	63	148	275	10
	ときどき行う	3	1332	158	84	159	309	603	19
	あまり行わない	2	1251	115	84	140	365	525	22
	全く行わない	1	1155	146	82	155	363	376	33
	平均点		2.57	2.74	2.89	2.45	2.38	2.62	2.14

表 10-3 学生による自己点検アンケート（前期/後期） <授業の準備について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 9】授業の準備 この授業に対して、予習、復習などの自己学習を行っていますか？	必ず行う	5	1196	277	110	93	147	393	176
	ほぼ行う	4	1896	317	222	143	314	689	211
	ときどき行う	3	3778	559	304	338	639	1518	420
	あまり行わない	2	3275	393	269	301	660	1285	367
	全く行わない	1	3015	452	271	294	608	800	590
	平均点		2.62	2.79	2.69	2.52	2.46	2.70	2.44

② 授業中の集中力について

授業への集中力については、いずれの学部においても標準とする 3.0 を若干ながら上回っている（表 11-1、11-2、11-3）。但し、設問が「私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることがある」と複数かつ 90 分間の単位では起きる可能性の高いものが含まれているのも、平均点が低い原因と考えられる。

表 11-2 学生による自己点検アンケート（後期） <集中力について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 10】集中力 授業中に私語、居眠り、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	全くない	5	1771	352	148	104	159	662	346
	ほとんどない	4	2907	498	299	183	413	996	518
	どちらとも言えない	3	1821	287	173	169	274	554	364
	しばしばある	2	1426	195	136	112	222	429	332
	毎回ある	1	423	76	23	44	35	129	116
	平均点		3.50	3.61	3.53	3.31	3.40	3.59	3.39

表 11-1 学生による自己点検アンケート（前期） <集中力について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 10】集中力 授業中に私語、居眠り、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	全くない	5	870	125	53	85	194	392	21
	ほとんどない	4	1724	216	142	174	419	744	29
	どちらとも言えない	3	1109	110	98	164	320	403	14
	しばしばある	2	852	101	81	110	260	284	16
	毎回ある	1	254	36	18	41	66	89	4
	平均点		3.44	3.50	3.33	3.26	3.33	3.56	3.56

表 11-3 学生による自己点検アンケート（前期/後期） <集中力について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問10】集中力 授業中に私語、居眠り、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	全くない	5	2641	477	201	189	353	1054	367
	ほとんどない	4	4631	714	441	357	832	1740	547
	どちらとも言えない	3	2930	397	271	333	594	957	378
	しばしばある	2	2278	296	217	222	482	713	348
	毎回ある	1	677	112	41	85	101	218	120
	平均点		3.48	3.58	3.46	3.29	3.36	3.58	3.39

③ 授業への出席状況について

授業への出席状況は、本調査の設問項目の中でもっとも高く、全学通年では「全出席」と「ほぼ」出席を併せると、全体の 90.5%である（表 12-1、12-2、12-3）。これは、本学の学生が真面目に授業に出席していることを示している。また、出席確認を厳密に行って3回欠席した学生の担任へ連絡を入れるという教務委員会の方針、授業の3分の1を超えて欠席した場合には定期試験を受験できないという本学の学則に拠るところが大きい。

表 12-1 学生による自己点検アンケート（前期） <出席状況について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問11】出席状況 授業には特別な事情を除き、出席していますか？	全出席	5	5695	705	433	395	735	2329	1098
	ほぼ出席	4	1879	499	228	128	254	370	400
	ときどき欠席する	3	570	155	82	64	79	52	138
	欠席が多い	2	147	37	25	21	26	8	30
	欠席が大変多い	1	58	12	11	4	9	10	12
	平均点		4.56	4.31	4.34	4.45	4.52	4.81	4.51

表 12-2 学生による自己点検アンケート（後期） <出席状況について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問11】出席状況 授業には特別な事情を除き、出席していますか？	全出席	5	3094	300	204	299	752	1495	44
	ほぼ出席	4	1263	208	138	187	365	338	27
	ときどき欠席する	3	328	65	39	51	100	65	8
	欠席が多い	2	117	17	12	21	40	22	5
	欠席が大変多い	1	39	6	3	10	13	6	1
	平均点		4.50	4.31	4.33	4.31	4.42	4.71	4.27

表 12-3 学生による自己点検アンケート（前期/後期） <出席状況について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問11】出席状況 授業には特別な事情を除き、出席していますか？	全出席	5	8789	1005	637	694	1487	3824	1142
	ほぼ出席	4	3142	707	366	315	619	708	427
	ときどき欠席する	3	898	220	121	115	179	117	146
	欠席が多い	2	264	54	37	42	66	30	35
	欠席が大変多い	1	97	18	14	14	22	16	13
	平均点		4.54	4.31	4.34	4.38	4.47	4.77	4.50

④ 知識の深まりについて

受講により知識の深まりを感じている学生の割合は比較的高く、全学通年で評価平均は 4.04 であった（表 13-1、13-2、13-3）。平均値 3.0 に比べ十分に知識の深まりを感じていると評価できる。

工学部と大学教育センターの講義でやや低く評価されている点気がかりである。

表 13-1 学生による自己点検アンケート（前期） <知識の深まりについて>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 12】知識の深まり	大いに深まっている	5	2363	442	283	178	291	777	392
	やや深まっている	4	4347	676	390	286	641	1544	810
この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？	どちらとも言えない	3	1179	198	83	109	129	338	322
	あまり深まっていない	2	295	58	14	25	31	76	91
	全く深まっていない	1	158	32	9	13	11	32	61
	平均点		4.01	4.02	4.19	3.97	4.06	4.07	3.82

表 13-2 学生による自己点検アンケート（後期） <知識の深まりについて>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 12】知識の深まり	大いに深まっている	5	1467	217	135	155	365	559	36
	やや深まっている	4	2600	297	195	302	695	1075	36
この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？	どちらとも言えない	3	542	56	52	78	132	213	11
	あまり深まっていない	2	141	13	7	27	42	50	2
	全く深まっていない	1	68	12	6	8	22	20	0
	平均点		4.09	4.17	4.13	4.00	4.07	4.10	4.25

表 13-3 学生による自己点検アンケート（前期/後期） <知識の深まりについて>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 12】知識の深まり	大いに深まっている	5	3830	659	418	333	656	1336	428
	やや深まっている	4	6947	973	585	588	1336	2619	846
この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？	どちらとも言えない	3	1721	254	135	187	261	551	333
	あまり深まっていない	2	436	71	21	52	73	126	93
	全く深まっていない	1	226	44	15	21	33	52	61
	平均点		4.04	4.07	4.17	3.98	4.06	4.08	3.84

⑤ 受講時の工夫について

受講するにあたり、個々の学生が自分に適した工夫をしている割合は低く、全学通年の評価平均は 3.48 であった（表 14-1、14-2、14-3）。「行おうと思っている」という回答が最も多い。これは、意欲を持ちながらも、どのようにすればよいのか困惑している状態と判断される。この状態の学生は学修方法を適切にアドバイスすることによって改善する可能性が高い。今後の教育改革における検討課題である。

表 14-1 学生による自己点検アンケート（前期） <受講の工夫について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 13】受講の工夫	積極的に行っている	5	1843	383	161	119	179	680	321
	かなり行っている	4	2143	368	205	148	301	806	315
あなたは、自ら講義内容を理解するため、ノートや講話の聞き方などの工夫や配慮を行っていますか？	行おうと思っている	3	2830	432	276	210	414	933	565
	あまり行っていない	2	1104	164	109	97	164	258	312
	全く行っていない	1	423	61	27	37	45	90	163
	平均点		3.46	3.60	3.47	3.35	3.37	3.62	3.19

表 14-2 学生による自己点検アンケート（後期） <受講の工夫について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 13】受講の工夫 あなたは、自ら講義内容を理解するため、ノートや講話の聞き方などの工夫や配慮を行っていますか？	積極的にやっている	5	1075	180	97	101	247	430	20
	かなり行っている	4	1317	163	110	129	366	528	21
	行おうと思っている	3	1613	144	127	197	431	692	22
	あまり行っていない	2	577	72	44	85	163	196	17
	全く行っていない	1	231	38	12	48	50	77	6
	平均点		3.50	3.63	3.61	3.27	3.47	3.54	3.37

表 14-3 学生による自己点検アンケート（前期/後期） <受講の工夫について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 13】受講の工夫 あなたは、自ら講義内容を理解するため、ノートや講話の聞き方などの工夫や配慮を行っていますか？	積極的にやっている	5	2918	563	258	220	426	1110	341
	かなり行っている	4	3460	531	315	277	667	1334	336
	行おうと思っている	3	4443	576	403	407	845	1625	587
	あまり行っていない	2	1681	236	153	182	327	454	329
	全く行っていない	1	654	99	39	85	95	167	169
	平均点		3.48	3.61	3.51	3.31	3.42	3.59	3.20

⑥ 質問への積極性について

通年全学で質問を行っている学生は 21.0%である。また、「質問はあるが、ほとんど質問していない」「質問すべきことがみつからない」と回答する学生が 52.4%であった(表 14-1、14-2、14-3)。これは、質問の吸い上げ方の好事例を収集して情報提供することで改善できる可能性が高い。

表 15-1 学生による自己点検アンケート（前期） <質問への積極性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 14】質問への積極性 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？	積極的にやるから、質問は多い	5	1718	338	134	107	205	536	398
	しばしば質問する	4	1058	226	171	114	86	275	186
	ときどき質問する	3	1283	188	194	102	156	383	260
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	3551	517	237	237	556	1361	643
	質問すべきことがみつからない	1	703	134	39	51	97	198	184
	平均点		2.94	3.08	3.16	2.98	2.77	2.85	2.98

表 15-2 学生による自己点検アンケート（後期） <質問への積極性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 14】質問への積極性 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？	積極的にやるから、質問は多い	5	966	173	96	132	225	318	22
	しばしば質問する	4	562	78	69	91	124	190	10
	ときどき質問する	3	628	101	65	90	138	219	15
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	2128	196	138	201	626	936	31
	質問すべきことがみつからない	1	451	45	25	45	130	200	6
	平均点		2.89	3.23	3.19	3.11	2.75	2.73	3.13

表 15-3 学生による自己点検アンケート（前期/後期） <質問への積極性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 14】質問への積極性 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？	積極的にやるから、質問は多い	5	2684	511	230	239	430	854	420
	しばしば質問する	4	1620	304	240	205	210	465	196
	ときどき質問する	3	1911	289	259	192	294	602	275
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	5679	713	375	438	1182	2297	674
	質問すべきことがみつからない	1	1154	179	64	96	227	398	190
	平均点		2.92	3.13	3.17	3.05	2.76	2.80	2.99

⑦ 学修への意欲の高まりについて

受講による学修意欲の高まりについては平均値 3.0 を上回り、評価平均値は全学通年で 3.79 であった。学部間での差はほとんど認められなかった。本学の授業が知的好奇心を喚起していることが示唆されるが、さらに改善の余地が大きいことが指摘される。

表 16-1 学生による自己点検アンケート（前期） <意欲の高まりについて>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 15】意欲の高まり この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思えますか？	大いに思う	5	1968	406	204	134	233	686	305
	やや思う	4	3599	547	368	241	510	1333	600
	どちらとも言えない	3	1936	296	147	176	268	564	485
	あまり思わない	2	536	101	45	34	64	130	162
	全く思わない	1	307	56	15	26	28	57	125
	平均点		3.77	3.82	3.90	3.69	3.78	3.89	3.48

表 16-2 学生による自己点検アンケート（後期） <意欲の高まりについて>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 15】意欲の高まり この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思えますか？	大いに思う	5	1114	172	99	123	261	438	21
	やや思う	4	2192	242	167	251	542	955	35
	どちらとも言えない	3	1072	123	83	134	327	385	20
	あまり思わない	2	283	34	29	31	83	98	8
	全く思わない	1	110	19	8	13	34	34	2
	平均点		3.82	3.87	3.83	3.80	3.73	3.87	3.76

表 16-3 学生による自己点検アンケート（前期/後期） <意欲の高まりについて>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 15】意欲の高まり この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思えますか？	大いに思う	5	3082	578	303	257	494	1124	326
	やや思う	4	5791	789	535	492	1052	2288	635
	どちらとも言えない	3	3008	419	230	310	595	949	505
	あまり思わない	2	819	135	74	65	147	228	170
	全く思わない	1	417	75	23	39	62	91	127
	平均点		3.79	3.83	3.88	3.74	3.75	3.88	3.49

⑧ 学習の成果について

学習の成果を問うこの設問は、本アンケート調査の究極の設問である。この設問に対して、全学通年で評価平均値が 3.88 であることは、高く評価できる。しかしながら、「少し成果は上がっている」という回答が最も多く、もう一步の努力が学生および教員に求められるところである。

表 17-1 学生による自己点検アンケート（前期） <学習の成果について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 16】学習の成果 この科目であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。	十分に成果はあがっている	5	1865	365	210	123	171	684	312
	少し成果はあがっている	4	4213	654	420	291	631	1469	748
	どちらとも言えない	3	1720	261	118	153	245	483	460
	あまり成果はあがっていない	2	369	86	22	35	42	86	98
	全く成果はあがっていない	1	178	40	9	9	14	47	59
	平均点		3.86	3.87	4.03	3.79	3.82	3.96	3.69

表 17-2 学生による自己点検アンケート（後期） <学習の成果について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 16】学習の成果 この科目であなたが 得た成果を5段階で 自己評価してください。	十分に成果はあがっている	5	1079	169	92	126	246	425	21
	少し成果はあがっている	4	2528	303	197	283	674	1029	42
	どちらとも言えない	3	915	89	78	112	259	359	18
	あまり成果はあがっていない	2	182	19	15	27	43	76	2
	全く成果はあがっていない	1	78	14	6	7	27	24	0
平均点		3.91	4.00	3.91	3.89	3.86	3.92	3.99	

表 17-3 学生による自己点検アンケート（前期/後期） <学習の成果について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 16】学習の成果 この科目であなたが 得た成果を5段階で 自己評価してください。	十分に成果はあがっている	5	2944	534	302	249	417	1109	333
	少し成果はあがっている	4	6741	957	617	574	1305	2498	790
	どちらとも言えない	3	2635	350	196	265	504	842	478
	あまり成果はあがっていない	2	551	105	37	62	85	162	100
	全く成果はあがっていない	1	256	54	15	16	41	71	59
平均点		3.88	3.91	3.99	3.84	3.84	3.94	3.70	

5. アンケート結果に対する学部・学科の報告書

本学では、学科単位でカリキュラムを編成しており、授業の点検・評価を学科単位で行うことが適切である。平成 25 年度にアンケート調査を実施した各学科の科目について、学科長に報告書の作成を依頼した。以下に各学科より提出された報告書を転載する。

<経済学部 経済学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、経済学科では前期 16 科目、後期 12 科目について調査を行った。

【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7 項目の平均は 4.22 であり、平均である 4.23 をわずかに下回っている。本学教員の場合、進行、話し方、講義の工夫、質問への誠意について問題があることが分かった。また総合的満足度を問う設問 8 では 4.18 と、標準値の 4.19 をやはりわずかに下回るが 0.01 下回っている。この原因は、「学生の自己点検」の結果に表れているように考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準を下回る結果としており、今後も一層の改善努力を試みる予定である。一部教員について板書文字が不明瞭との指摘があり、学科長から該当教員に改善努力を口頭で促した。また全教員へ全体結果の情報を共有した。

【学生の自己点検調査結果に対する点検】

自己点検結果の分析：集計結果については、標準値 3.58 をやや上回る 3.60 であった。授業の準備、受講の工夫などでは平均値よりも高い値であったが、出席状況、知識の深まりなどが低い値であった。学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果であると判断されるが、本学学生の資質と氣質が反映していると考えている。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは至難の業であるが、PBL や SGD 等の新しい教育方法を取り入れることも有効策の一つと考えられる。また、補習教育などの充実も重要であるが、これらの制度を活用する意欲を培うことは至難の業ともいえる。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 62.5%であった。学生に対するフィードバックは学科長から該当教員に改善努力を口頭で促した。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- (1) 教員側が回答する部分がない。
- (2) 理解度を向上するには能力別クラスを検討してはどうか
- (3) レポートなどを丁寧に見ることができるよう、TA 制度を検討願いたい。
- (4) 実施時期が例年前・後期の終りとなっている。担当教員が学生へフィードバックする、報告書を提出することから止むを得ないところもあるがもう少しゆとりが欲しいと感じた。

【総括】

今回のアンケート調査では、本学における授業の実施と学生成果について実態を表す結果が得られたと考えている。今後は示唆される問題点の解決に向けた取り組みを進めたい。

アンケート結果では本学科教員で、平均よりもかなり高い教員、かなり低い教員がいて教員間で大きな格差があった。低い教員にあってはどの分野に問題があり、原因は何か、と原点に立ち返り対策を立てる必要がある。一方高い教員にあっても、引き続き学生目線に立った教育、指導に努めなければならない。このため意識改革するよう本報告書の要旨を教員全員へフィードバックする。

レーダーチャートは自らの位置が把握しやすく、長所・短所を分析しつつ今後は各教員が取り組みの成果が表れるよう教育向上に役立てて参りたい。

<人間文化学部 人間文化学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、人間文化学科では前期 19 科目、後期 4 科目について調査を行った。

【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は4.39であり、平均を大きく上回っており、本学教員の話法、計画性等の授業技術は十分に高いレベルだと判断できる。また、総合的満足度を問う設問8でも4.08と、比較的高い値であった。それを反映して、「意欲の高まり」3.89、「学習の成果」3.98も比較的高い。それに比べて、「授業の準備」は2.35で極めて低く、それに伴って「集中力」3.52、「受講の工夫」3.46、「質問への積極性」3.07はいずれも低い。この結果の示す所は、教員が努力して学生の満足度を高めているものの、学生の主体的取り組みは低く、受け身的であるということだと推測できる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、今後は学生が主体となって授業に取り組むような工夫が必要である。

【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：集計結果については、標準値3.5を下回る3.38であった。前述のように、学生の受け身的な姿勢が現われているといえる。

分析結果を踏まえた改善方策：「知識」を主とする科目では、体系的な知識の講義が主であるが、学生がこれに主体的に取り組む方策について、教員間の教育方法の研究が必要である。また、「技能」の授業においては、学生に可能な課題の設定が重要であり、教材研究が必要である。また、PBLやSGD等の新しい教育方法については、教育目標を明確にし、学習成果を具体化していくことが必要だと考えられる。また、基礎学力の育成については、学生が意欲を持って取り組むまで教員が伴走する体制が必要と考える。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は52%であった。学生に対するフィードバックは各学終了までに学科ごとに行った。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- (1) アンケートの質問項目が不適切で改善が必要、学生への質問に特に配慮が必要。
- (2) 講義の途中のアンケートでは効果が計れない。
- (3) 学生の回答の意図がつかみにくく、フィードバックが困難。

【総括】

今回のアンケート調査では、本学における授業の実施状況と学習成果の実態を表す結果がある程

度得られた。今後は授業改善を求めたい。また、本学科では非常勤講師が中に含まれているため、提出率が著しく低かった。非常勤講師については配慮をお願いしたい。

<人間文化学部 心理学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、心理学科では前期 5 科目、後期 4 科目について調査を行った。

【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7 項目の平均は 4.47 であり、平均を大きく上回っており、本学教員の板書、話法、計画性等の授業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。総合的満足度を問う設問 8 では 4.21 であり、7 項目の平均値をやや下回るものの、全学平均の 3.91 を上回る値であり、これも標準以上の評価と言える。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準より高い評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる予定である。なお、4 点以下の評価項目が複数ある教員については、学科長が該当教員に教科特有の教授の困難さを克服する工夫を考慮するように口頭で促した。

【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：集計結果については、学生の自己点検の平均は 3.87 であり、全学平均 3.59 をわずかに上回る結果であった。教員への授業評価の高得点を考えると、その差は大きい。一昨年の 3.44、昨年は 3.62 から毎年徐々に改善されている。これは教員側の学修のための情報提供が十分でなく、課外学習が行われていないことと、授業に対する学生の積極性を引き出せていないことが原因として考えられ、今後一層の改善を図る必要がある。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。そのため、学科会議において学生の自己点検の高い教員に聞き取りを行い、効果的な学修方法について情報共有した。毎回の授業の最初と終わりに小テストを行う方法、そのために次回までに行ってくる課題を提示することが効果的であることが分かった。そのため、来年度シラバスの各時間に予習の課題を書くこと、あるいは、授業で次回の課題を指示することを実施することとした。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 100%であった。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回において、当該授業科目担当教員が行った。なお、学生へのフィードバックの方法は、心理学科では各教員にまかせている。多くの教員が各項目の平均点を、大学全体、学部、学科、当該授業と並べて説明、授業もしくは試験の際に PPT などを用い、口頭で報告と解説を行っていた。その詳細は提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を一部紹介する。

<意見・提案>

- (1) 今年度の授業形態は学生の活動が中心であったが、講義とアクティブ・ラーニングの割合を検討する必要がある。
- (2) 予習・復習や授業関与度を上げることで学習成果を高められる様子が昨年度よりも実感された。
- (3) 具体的な社会問題を取りあげ、知識を日常生活に応用できるようにする。
- (4) 予習課題の講義における位置づけ、評価等を明確にすることで、学生の授業準備への意欲を高めたい。

【総括】

今回のアンケート調査では、本学における授業評価と学生の自己点検の実態が明確となったと考えられる。心理学科の課題は、学生の積極的な授業への取り組みの向上である。これらに対しては、上記のように評価の高い教員の方法を共有したり、それをシラバスと授業へ活かすことで対処していきたい。

心理学科では、今回の調査対象としていない、実験実習、統計演習などの理数系の科目があり、もともと文系志向で入学してくる学生のギャップとなっている。しかし、大学院生によるピアサポーター制度やグループ内での学び合いによる学習成果も現れており、このようなメンター制度をより機能させることが、かえって心理学を学ぶ学生の進路にも好影響を与える可能性もある。ただし、それでもコミュニケーション不足となったり、自分の学習状況をモニタリングできない学生も増えてきた。

このような状況を打破するため、来年度からは「心理学検定」を3年次に全員が受験して、2級を目指すというモチベーションを与える。学内のみならず、第三者の評価を受けることで、学習への真剣さと資格取得のモチベーションを高めることができると期待する。

<人間文化学部 メディア情報文化学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、メディア情報文化学科では前期9科目、後期2科目について調査を行った。

【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は前期4.28、後期4.24であり、平均を大きく上回っており、授業技術と講義内容は平均的に高いレベルを有していると判断できる。ただし、難易度の適切性については科目ごとのバラツキは大きく、低い数値の科目がいくつかあり、学科内で難易度等

の情報共有と調整が十分でない可能性もある。総合的満足度を問う設問 8 では前期 3.92、後期 4.1 と、標準値をやや上回るものの、授業技術等に較べて低い値であった。講義の満足度は他の項目（設問項目の 1～7）に対して相対的に低くなっており、受講の成果に対する評価軸（授業のねらい等）を明確に理解させることができていない可能性がある。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は概ね標準以上の評価をしている。ただし、難易度の適切性については十分に満足していない可能性を示す結果である。各科目の教授項目や難易度は学科カリキュラムで設定し共有するものである。したがって、教員毎に設定するのではなく、学科会議等で議論して決定・実施する。

【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：授業の準備、受講の工夫、質問への積極性、意欲の高まりは全学標準値 3.5 に対して低いといえる。学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果とも考えられるが、授業のねらい等が授業の中で明確に示せていない可能性やこれらを踏まえず希薄な目的意識で受講している可能性がある。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。年度開始時の学科オリエンテーション等でカリキュラム全体の概要と各科目の関係を理解させる等の履修登録前の指導を充実させることも有効策の一つと考えられる。また、卒業後の進路と各授業で習得すべき事項の関係を明確化して受講できるよう、授業時間外の学生指導の充実も必要である。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果のある非常勤講師を含む学科教員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。ただし、非常勤講師担当の 2 科目についてはアンケート実施・集計時期と授業日程が合わずフィードバックされていない。科目担当教員には、授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 100%であった。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義中に、1 科目を除いて、当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- (1) 大人数の授業ではなかなか難しいことでもあるが、考えを発表する機会をつくっていくことが、学習成果の向上にもよい影響を与えるのではないだろうか。
- (2) より関心を持たせるよう、次回に向けた課題を出すなど準備をして臨ませるような工夫、講義内容の小テストの反復などにより、内容の理解度を高め、定着させることができると思います。
- (3) 講義最終回後に学外での成果発表会を計画しており、その後にも学習成果について調査

したい。

【総括】

アンケート調査では授業の実施状況と成果の実態を表す結果が得られたと考えている。示唆される問題点解決に向けて改善を行いたい。次年度のシラバスから数科目をサンプリングして学科会議で検討する等、授業のねらい等を学生が理解しやすくなるよう具体的な対応の一部を開始している。

<工学部 電子・ロボット工学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、電子・ロボット工学科では前期7科目、後期6科目について調査を行った。

【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は4.20であり、全学平均（4.23）とほぼ変わらず、高い値をとっており、当該学科教員の板書、話法、計画性等の授業技術は高いレベルを保っていると判断できる。内訳をみると、【質問7】難易の適切性は学内平均を上回るが、逆に、【質問6】質問への誠意が学内平均を下回るという一見矛盾する結果となっている。また、総合的満足度を問う質問8では3.86と、全学平均（3.91）をわずかに下回る結果になっており、質問6と7の矛盾も併せて鑑みると解ったようで釈然としない部分も残る、例えば解ったつもりであったが問われると答えられないというような、ジレンマが総合的満足度に反映されていると感じる。また、このことは、「学生の自己点検」の結果にも表れているように考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：学生は授業技術やコンテンツ等の難易度については一定の評価をしているが、授業を受けるクラスが持つ温かみ、例えば、教員、学生同士との連帯感に不足を感じている可能性がある。次の「学生の自己点検」の【設問14】の結果が示すように、質問したくてもできない学生が少なくないようである。少なくとも初年次においては、質問をしやすい環境を整える（理解できていないことが周囲から特定されないような配慮など）か、あるいは、質問をしなくてもよい状況を作る（当学科の学生が疑問に感じそうなところを先読みして詳しく説明するなど）の繊細と感じる最近の学生の自尊心を傷つけない工夫や配慮が今まで以上に必要と感じる。確認テストのような形成的評価を持続し、学生の実情や傾向を知ることが有効であろう。恐らく、ひとたびクラスに信頼関係ができれば積極的な質問を引き出せ、授業の満足度も向上すると考える。

【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：集計結果については、学内平均3.58を若干下回る3.55であった。内訳を見ると、【質問9】授業の準備、および、【質問13】受講の工夫が学内平均を0.25ポイント程度下回り、一方で、【質問12】知識の深まり、および、【質問14】質問への積極性は学内平均を0.1ポイント以上上回っている。このことから、まじめで意欲のある学生が多いが、得た事柄を定着させる方法、すなわち、学修方法を知らないか、あるいは、それが身につけていない学生が多いことが推察

できる。

また、後期に於いては出席状況が低い値となった。これは後期になり前期の緊張感が薄れることまた、冬季にかかり、目覚めにくい、あるいは、気持ちが落ち込む学生が増えるためと推察できる。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が自主学習の手法を学び、さらにそれを習慣化できる指導が早い段階で必要である。また、これには努力（継続）が必要であることを実感させる必要がある。この課題を達成することは至難の業であるが、特に1、2年次では「白熱教室」のような雰囲気を持つ新しい授業形態を取り入れて彼らの意欲と興味を絶えず引き出すことや、オフィスアワーが有意となるような工夫をし、学修時間内に適宜助言をするような適切な随伴を行うことが有効と考えられる。また、補習教育などの充実も重要であるが、これにおいてもコンテンツではなく寧ろサポートの在り方に工夫が必要であると考ええる。

意気消沈する傾向が強い後期は特に闊達とした授業の進め方が必要であるかもしれない。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。学生に対するフィードバックは各期終了までに学科ごとに行った。また、後期調査結果が公示された時点で前期分も併せて学科全教員の結果を相互に開示し学科の傾向を分析している。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回までに当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

提案、意見はなかった。

【総括】

今回のアンケート調査では、本学における授業の実施と学成果に実態を表す結果が得られたと考えている。今後は示唆される問題点解決に向けた改善を求めたい。各教員の努力により授業技術などに関する評価は年々上がっている半面、授業の理解度や興味の持続に関しては覚束なくなりつつある。先にも書いたが、学習方法の指導、継続や持続の大切さなど、本来であれば初等教育で身につけておくべき心得を粘り強く伝える必要があると感じている。さもなければ、学修時間を確保したことが仇となる可能性がある。

<工学部 建築・建設学科>

【総括】

建築・建設学科では、前期5科目、5名の教員、後期2科目、2名の教員が授業評価アンケートを実施した。

各教員の授業評価アンケート結果については、前期、後期ともに学科内で情報を共有し、各教員が改善策の検討と学生へのフィードバックを行った。

学科全体と全学との平均値の比較では、前期の場合、「出席状況」を除いて全ての項目で全学平均

値を上回り、昨年度の平均値も上回った。また、回答率については88.6%であり、必修科目もあり全学平均値を大きく上回った。前年度の前期が、全学平均値を大きく下回る科目が3科目あったが、今年度は、全学の平均値を大きく下回る科目はなかったために、平均値が上がったものと考えられる。後期は2科目であるが、「時間」、「難易の適切性」、「質問への積極性」、「意欲の高まり」、「学習の成果」について全学平均を上回り、「話し方」、「講義の工夫」、「集中力」、「知識の深まり」の項目においては全学平均を下回った。自由記述欄の内容として、前期においては昨年度と同様に板書の仕方に関する内容があり、後期では授業の難易度についての記述があった。

「講義の満足度評価」と「学習の成果」の2項目に対する学科内の全評価対象7科目のうち、全学平均値以上の科目がともに5科目、全学平均値を下回る科目がともに2科目、であった。各科目における「講義の満足度評価」と「学習の成果」の評価点はほぼ同程度の評価点であり、大きな差がみられた科目はなく、連動した評価値となっている。アンケート項目の「学習の成果」は学生による自己評価であるが、定期試験の結果等による教員側の評価も考慮して最終成果の判断を検討する必要がある。昨年同様に、今年度の授業評価対象科目においても複数年継続して実施されている科目については、評価値が高く、変動も少ない。また、今年度新規の授業科目もあり、今後の継続的な実施が望まれる。

建築関係の知識と技能の学習については、その授業科目を履修する前の取得状況や他の科目との関連性の有無による影響もあり、本来の学習成果を捉えるためには、全体系的視点からみた複合的分析による評価を行う必要がある。したがって、それぞれの科目が関連性を持つ総合化に向けた教育が求められ、各授業間の連携と教員間の情報交換を行い、カリキュラムマップの有効活用を行いながら、授業の関連性を学生に理解させ、学生の学習意欲を引き出すための授業改善を学科全体で取組みたい。

<工学部 情報工学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、情報工学科では前期3科目、後期9科目について調査を行った。なお、中嶋及び樽谷非常勤講師に関しては、アンケートの実施は後期に行われている。

【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：アンケートの結果では、「講義に対する満足度」は、全学の平均点である前期3.89、後期3.93に対し、学科の平均点が前期3.18、後期3.98と前期が特に下回っている。学科の最低目標である3.5以上を通年の平均では満足しているが、前期に標準値の3.5未満が2科目ある。また、評価が3.0以下となる特に低い科目も1科目あり、非常に厳しい評価となっている。また、自由記述には厳しい指摘のものもあり、担当者には直接伝えることとした。

分析結果を踏まえた改善方策：前期のアンケート結果を学科教室会議で公表し、改善のための議論を行った。後期は、独りよがりの授業になっていないか、授業中に小テストを行い、理解度を時々チェックするように方針を定めた。その結果が、後期の評価の向上につながったものと考え

えられる。

【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：「学習の成果」では、全学の平均点である前期 3.86、後期 3.9 に対し学科の平均点が前期 3.56、後期 3.89 とやはり前期が大きく下回っている。しかし、評価が 3.0 以下となる特に低い科目は存在しなかった。また、「講義に対する満足度」が特に低くても、「学習の成果」はあまり低くない場合がある。

分析結果を踏まえた改善方策：定期試験のみで学習の効果を判断するのではなく、授業中に小テストを行うなどして、学生が授業をどの程度理解できているかを常時チェックし、毎回の授業に臨機応変に反映していく。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果を開示し、フィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

- (1) 学生が力をつけるような参加型（小テストも含む）の授業を目指す。
- (2) 図を用い視覚に訴えて理解しやすい工夫を行う。
- (3) 学生の習熟度に差があり、授業の難易度や進行速度を設定しにくい。

【総括】

前期の授業アンケート結果が悪かったため、教室会議で改善策を検討した。その結果、小テストを導入することで、学生がどの程度授業を理解しているかを定期的にチェックし、必要があれば復習を行うという改善案を行った。この効果もあり、後期の授業アンケートの評価はおおむね大学平均値と等しく、大きく向上した。しかし、学生の習熟度の問題は解決していない。入学時から学生間に大きな習熟度の差が生まれている。習熟度の異なる学生にどのように対応するかを引き続き議論していく。

＜工学部 機械システム工学科＞

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、機械システム工学科では前期 5 科目、後期 4 科目について調査を行った。

【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。この7項目について、全学平均と比較して学科平均が上回っているものは、前期・後期を通じて残念なならない。総合的満足度を問う設問8でも、前期・後期とも、学科平均は全学平均を下回っている。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業実施方法、授業技術が、あまり評価されているとは言えず、授業改善の取り組みが必要であると考え。ただし、各教員が既に対応・改善努力を記述したり、実行したりしており、また、自由記述などにおいて、多数重複するような特記指摘事項はなく、ある程度の授業改善努力により評価の向上が見込まれると考える。

【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：後期結果の受講の工夫と質問への積極性は、全学平均と比較して学科平均がわずかに上回っている。その他はすべて学科平均は全学平均を下回ってしまっている。学生は、自らの学習に対して厳しい評価を下した結果となっている。

分析結果を踏まえた改善方策：各教員記述の改善方針にも記載があるが、当該科目学修の重要性や必要性を充分説明して、理解させる必要性が高いと考える。また、大半の学科教員が記述しているように、学生が主体となり、授業に参加できるように、アクティブラーニングを導入して、学生の学修意欲を向上させる努力が必要と考える。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。学生に対するフィードバックは、全教員が行った。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、アンケート結果取得直後の講義時、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。各学科教員は、それぞれの結果を真摯に受けとめ評価しており、既に対応を検討したり、実行したりしている。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- (1) アクティブラーニングの導入。学生参加型授業の実施。
- (2) 質問内容を精査し、学生が理解しにくい点を把握する。
- (3) 実例による説明を増加する。
- (4) 学問的重要性と学生の興味誘起（学習目標の設定）の再検討。
- (5) 次回授業内容の連絡、資料配布により、予習を促す。

【総括】

これまでのアンケート結果においても、しばしば見受けられた点であるが、難易の適切性で問題

を抱えている授業が多い。理系学科であり、数式や論理的内容を含んだ授業が多く、学生の基礎学力低下傾向の影響を受けているものと考えられる。

一方で、CAD 教室などを使用する実習比率の高い授業では、アンケート結果が比較的良好である。学科の専門教育の中心的内容でもあり、学習効果を高めるためにも同類授業の導入が有益と考えられる。

<生命工学部 生物工学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（客員教授 2 名、兼任教授 1 名を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、生物工学科では前期 9 科目、後期 5 科目について調査を行った。

【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 8 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。8 項目の平均は 4.09 であった。標準値 3.5 より高いものの、全学平均 4.19 よりやや低い評価結果であった。昨年度の学科平均と比べるとかなり低く評価されたことになる。全学平均値を上回る設問項目はなく、学科全体では教育技術の低下傾向が認められると判断せざるを得ない。しかし、教員の個別評価を見ると 2 名の教員は全項目にわたって極めて高く評価されている。一方で、全項目にわたって低く評価されている教員も数名いる。このことは本学科教員の教育努力と技術の二極化傾向にあると考えられた。総合的満足度を問う設問 8 では 3.74 であった。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、なお一層の改善の余地が残されている。低く評価された教員には一層の改善を期待したい。講義内容の適切性を指摘する意見（難しすぎる）も多くあり、シラバスの内容についても再検討する必要がある。平成 27 年度にカリキュラムを改定する予定であるため、そこで議論を深めたい。また客員教授には低く評価されている教員が存在する。非常勤であるため、学生の学修に関する実態の理解が出来ていないので情報を提供してほしいという依頼もあった。本学科学学生の気質、学修習慣などについて授業開始までに正しく伝えることで改善方策を立て易く配慮する必要があると考えられる。また、それでも改善の成果が現れないときは、非常勤講師の変更も検討する必要がある。

【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：集計結果については、標準値 3.5 を下回る 3.38 であった。学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果であると判断されるが、本学学生の資質と気質が反映していると推定している。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは至難の業であるが、学科教員の半数がアクティブ・ラーニングの導入により改善する可能性に期待しており、PBL や SGD 等の新しい教育方法を取り入れることも有効策の一つと考えられる。本学科では、醗酵科学プロジェクトを推進しているが、これはプログラ

ムそのものがアクティブ・ラーニングであり、その成果を期待したい。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- (1) 化学のような初年次生向けの基礎科目は、高校時代に化学を勉強した学生と、していない学生間に大きな学力の壁があり、均質な講義内容では両極端の学生に対処できない。高校で化学を学習した学生向け、しなかった学生向けにレベルの異なるワークを使用する。
- (2) 毎回実施している小テストの採点を数回分まとめて行ったので、その都度丁寧に対応しきれなかった。今後は毎週採点を行い、一層細やかに対応していきたい。
- (3) 板書等に工夫をしているつもりであるが、授業に工夫が足りないとの評価であったので、プリントの配布等、授業が単調にならないよう工夫したい。
- (4) 将来に役立つと思わせるような実生活と結びつけた話題提供が有効であると考えられる。講義をより魅力的にするために読むべき本はたくさん残されている。常に講義内容を進化させ、学生全員が「満足」と言う講義を行いたい。
- (5) 学生がより積極的に授業に参加できるような方策を立てる必要があると考える。SGD の導入や発展的な課題の提示など。きめ細かな修学状況のチェックも必要である。
- (6) 学生が積極的に学ぼうという気にさせないことにはこれらのアンケート項目を満足させることはできない。
- (7) 当講座に関しては、係数に正規性がなく分布に分散がみられる。このことから、学習成果の判断よりも、学生の能力、人間性等の資質の高低差に問題がみられる集団と考えられる。
- (8) 効果的な予習・復習をできる環境づくりが重要と考える。
- (9) 大学教育で重要な、学修に対する「自主性」、「積極性」、「創意工夫」などがまだ不十分で、これらが身に付くように指導や授業方法を改善するべきであると感じた。
- (10) 学生さんのモチベーションを向上させ、勉強の中に楽しみを見いだしてもらう事を心がけ、個人個人の成績のバラツキに対しては寛容の目を持って臨んでいる。
- (11) 苦手意識を克服できずに定期試験が不合格となった学生に対しては、後期の補習で底上げを図っていきたいと思う。
- (12) 「適切な質・量の宿題」を課すことも考慮すべきであると考えている。
- (13) 学生への質問を名指しで指名することにより、講義への緊張感や集中力を高める。講義態

度が評価されることにより、受講への真剣度が向上するものと期待される。

- (14) 教員から学生への一方通行の授業形態では、学生の自主性が育たないと思われる。
- (15) アクティブ・ラーニングを導入し、学生が五感で理解するような授業を展開し、理解したことが実社会でどのように実践されているか見学すること少しは望ましい方向に進展させることができるのではないか。
- (16) 学生とコミュニケーションを取り、実演を交えて授業を進め、学生の集中力を維持する。
- (17) 次回の授業の予告や、学生が興味を持ちにくいと思われる部分を短めにするなど工夫したいが、基本的な知識の習熟度や興味について、日頃学生に接していないため把握しにくいので、これらについての情報を提供していただきたい。

【総括】

今年度の評価献花は、昨年度よりすべての項目について平均値が低く評価された。これは教員の教育の改善努力が不十分であるためと判断される。とくに低く評価された教員には「改善方策はない」という報告書も散見された。今後の改善は学科の教員集団として取り組む必要がある。また、授業改善に向けたFD活動の企画や他大学で行われている研修に参加することで大学教育の潮流を認識する必要がある。

<生命工学部 海洋生物科学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、海洋生物科学科では前期6科目、後期9科目について調査を行った。

【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：講義に対する学生の評価に関する質問1から質問8についての結果では、前期に実施した6科目の平均ではすべての項目で全学平均を上回ったが、後期に実施した8科目の平均では逆に全項目で全学平均を下回るという残念な結果となった。学生の自己点検に関する質問9から質問16についての結果では、前期に実施した科目の平均は「知識の深まり」、「意欲の高まり」、「学習の成果」の重要な3項目で全学平均を上回ったが、後期に実施した科目の平均はやはり全質問項目で全学平均を下回った。このように前期と後期で違いが現れたことには、後期の対象科目に本学科所属学生が苦手とする物理や化学の知識を要する科目や基礎的な内容を扱う科目が多く含まれていたことがその原因の一つに挙げられる。特に化学の知識をある程度要する科目については、担当教員はもちろん、学科としても学科会議等で協議を行い、科目の難易度設定や解説の仕方等について意見を出し合って改善につとめてきたが、未だ十分な成果が得られていないのが現状である。

分析結果を踏まえた改善方策：授業技術に係る質問1から5については、学科平均は全学平均以下と言っても、ごく一部の科目を除いて全学平均以上あるいは全学平均並の評価を得ている。これらの項目および「難易度の適切性」の評価が全学平均よりも明確に低い科目の担当教員に対しては、学科長から口頭で改善努力を促した。

【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：学生の自己点検に関する質問9から質問16についての結果では、前期に実施した科目の平均は「知識の深まり」、「意欲の高まり」、「学習の成果」の重要な3項目で全学平均を上回ったが、後期に実施した科目の平均はやはり全質問項目で全学平均を下回った。こちらについても先に述べた物理や化学の知識を要する科目や基礎的な内容の科目が後期の対象科目に多く含まれていたことが影響していると推察している。

分析結果を踏まえた改善方策：化学系の内容を含む科目への対応として、1年次に専門基礎科目として化学ⅠとⅡを用意し、高等学校初級レベルから始めて、学科の専門科目の理解のために必要な内容に絞って教えているが、学生から苦手意識を取り除き、自ら学ぶ意欲を生み出すまでの効果は未だ得られていない。今後も学科会議等で話し合っ改善策を検討していく予定であるが、現状の入学生の中には高校初級レベルの化学の知識すら全く修得していない学生（習ったことがない学生も含む）も多く、対応は容易ではない。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は93%であった。なお、博物館概論担当の非常勤講師 臼井先生についてはご高齢のためメール等も使えず、期限までに報告書を提出して頂くことができなかった。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回までに当該授業科目担当教員が行った。その詳細は別に提出した各教員からの報告書に記載されている。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- (1) 教員は学生と情報交換を密にすることでより質の良い魅力的な講義を企画することが大切である
- (2) 講義の重要ポイントを授業の最初に示し、また最後にも繰り返すなどして、最低限身につけて貰いたい知識を徹底して理解させることが大切である。
- (3) カリキュラムの内容を充実させて魅力ある学科づくりを教員スタッフ一丸となって進めることで受験生の増加につなげ、より質の高い学生を獲得する努力が必要である。

【総括】

今回のアンケート調査では、生物そのものが中心として扱われる科目と化学・物理の内容を多く含む科目との間、また基礎的な科目と応用的な内容を扱う科目との間で、評価結果がかなり異なる傾向がみられた。これまでただ手を拱いていた訳ではないが、今後もこの問題点を改善するための方策について学科教員全体で取り組み、進めていきたい。

<薬学部>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、薬学科では前期 2 8 科目、後期 1 2 科目について調査を行った。

【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7 項目の平均は 4.26 であり、平均をやや上回っており、本学教員の板書、話法、計画性等の授業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。しかし、総合的満足度を問う設問 8 では 3.96 と、標準値をやや上回るものの、授業技術等に較べて低い値であった。この原因は、「学生の自己点検」の結果に表れているように考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準よりやや上の評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる予定である。一部教員については自由記述に記載の事項について、妥当と判断されることについては、学科長が該当教員に改善努力を口頭で促した。

【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：集計結果については、標準値 3.55 をやや上回る 3.60 であった。学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果であると判断されるが、出席はしているものの学修に対する積極性に欠ける本学部学生の資質と気質が反映していると推定している。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が恐らくほとんどの学生が近い将来、薬剤師などの薬学・医療分野関係の仕事に就くことについての現在の薬学の学習の必要性を痛感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは至難の業であるが、PBL や SGD 等の新しい教育方法や補充・補修教育を取り入れること、また、到達度の判定の複数回の実施やより厳格化も有効策の一つと考えられる。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は、ほぼ 100% であった。学生に対するフィードバックは前後期終了までに行った。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- (1) アンケートの実施時期を早めて戴きたい。
- (2) 実施期間を長くして頂きたい。
- (3) 同一教員の授業について複数回実施し、その平均を求めるのも如何か。

- (4) 学生への「自己点検」として、自主的な学修態度を向上させるための方策を自由記述させては如何か。

【総括】

今回のアンケート調査では、本学における授業の実施と学生成果に実態を表す結果や昨年との差異が得られたと考えている。今後は、特に学生自身の単に出席するだけでなく、予習や復習を含め、学修意欲の向上に向けた改善を希求する。

5. 授業担当教員の報告書

授業評価を受けた各教員より提出された報告書を次頁以下に添付する。

(ただし、ホームページでは省略)

以上